

うつのみや人づくりビジョン策定懇談会（第1回）会議録

日時 平成16年5月26日（水） 午後1時～午後3時5分

場所 市役所 14C会議室

出席者

〔委員〕太田周，青柳宏，中村正之，若林治美，安久都和夫，遠藤敏幸，
每澤典子，藤沼千春，麦倉仁巳，船津祥，佐々木英明，赤羽根肇，
栗坪容子，石井智子，加藤英典

（欠席：小林順子，高橋克知，渡辺映子）

〔事務局〕教育長，教育企画課長，学校教育課長，学校管理課長，生涯学習課長，
スポーツ振興課長補佐，教育センター所長，ほか4名

公開・非公開の別 公開

傍聴者 記者：1名

会議経過

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員，事務局紹介
- 4 議題
 - (1) 会長，副会長の選出について
 - (2) 策定の趣旨及び懇談会における主な検討内容について
 - (3) 懇談会検討スケジュールについて
 - (4) 本市教育の現状と問題点
 - (5) 意見交換
 - (6) 会議日程について
- 5 閉会

会議の結果

- (1) 会長，副会長の選出について
委員の互選により，会長に太田委員，副会長に船津委員を選出。
- (2) 策定の趣旨及び懇談会における主な検討内容について
事務局より説明し了承を得た。
- (3) 懇談会検討スケジュールについて
事務局より説明し，了承を得た。
- (4) 本市教育の現状と問題点
資料4「世代別問題点」及び「教育に関する市民意識調査結果概要」をもとに，

事務局より説明。その後、意見交換を行なった。

(5) 意見交換

(6) 次回会議日程について

第2回懇談会の開催日時について協議し、6月29日(火)午前10時から開催することとした。

発言の要旨

〔策定の趣旨及び懇談会における主な検討内容について〕

安久都委員 : 他都市においてこのようなビジョンは、策定されているのか。

教育企画課長 : 県内では最初である。県レベルでの策定はされている。ただし、学校教育を中心としたビジョンが多く、一生涯を通じた人づくりのためのものは初めてであると思われる。

中村委員 : 人づくりビジョンの中での生涯学習の範囲を教えてほしい。

教育企画課長 : 資料に記載している「生涯学習」は、狭義の社会教育の一部分を示している。但し、ビジョン自体は、生涯を通じた「学び」の理念を検討していく。

〔本市教育の現状と問題点〕

青柳委員 : 世代別問題点はその世代だけのものではなく、次の世代の問題を生み、親になった時は、子どもの問題を生むといった「負の循環」が生じていることは理解できる。しかし、この問題は親子関係だけで論じるものではなく家庭の文化などの視点も入れて考えるべきではないか。

佐々木指導主事 : 確かにそのとおりである。核家族化が進み、今と昔では、家庭の機能も変化している。世代別問題点が起きないようにするための学校や家庭などのあり方を本懇談会で検討し、提言をいただきたい。

毎澤委員 : 子育ての不安や悩みについて、「子どもを叱りすぎている気がする」といった不安や悩みが一番多い。親のコミュニケーション能力不足が原因ではないか。コミュニケーション能力は、幼児期から育成することが必要であり、親になりすぐに身につくものではない。親の世代が集まって相談したり、助けあえるような場や機会がとれる施策が必要である。どの年代においても責任のなすりあいをするのではなく、家庭、地域、企業などで連携・協力していくことが重要ではないか。

麦倉委員 : 役割の明確化や連携・協力を協議するために、家庭教育の調査について、男女別や年代別の資料も示して欲しい。

佐々木指導主事 : 次回に示します。

〔意見交換〕

藤沼委員 : 目標年次が平成 37 年で 20 年先とあるが、社会変化が激しい中で、20 年先の社会状況を予測することは難しいのではないか。

教育企画課長 : 20 年後を想定するのではなく、20 年先どのような人をつくり、社会をつくっていくのかという視点も考えられる。

青柳委員 : 市民が参加し、自ら社会をつくるという市民性の醸成が必要である。また、長期的なビジョンであるので、宗教性や精神論など、人間の普遍的な部分をこの懇談会で議論することが重要ではないか。

栗坪委員 : アンケートで「子どもを叱りすぎている気がする」といった不安や悩みが一番多い。その一方で、学校の先生が子どもを叱ることに対し、親は、過敏に反応しているように感じる。親が子育てに対し自信をなくしているように思う。

加藤委員 : 「負の循環」が世代間で起こっているとの説明があったが、人づくりを行なうには、子どもだけでなく、親世代の教育を行なうような新たな取組が必要であると感じている。

石井委員 : 昔話には普遍的な真理が表現されている。また、幼児期から親子のふれあいを通じて教育を行なえば、より豊かな社会になると思い、人形劇や読み聞かせなどのボランティア活動を行なってきた。父親、母親が、子どもとふれあいをもてる環境が必要だと思う。

船津委員 : 人づくりを考えると、目標年次の 20 年は、子どもが生まれて成人するまでの 1 スパンなのではないか。自分達がいなくなった時に社会をどんな形で次の世代に託すのか。これをイメージし、今後どんな社会をつくっていくのかを議論することは大切である。